

ひめじ創生SDGsカフェ

開催日時：令和4年8月20日(土)13:30~16:30

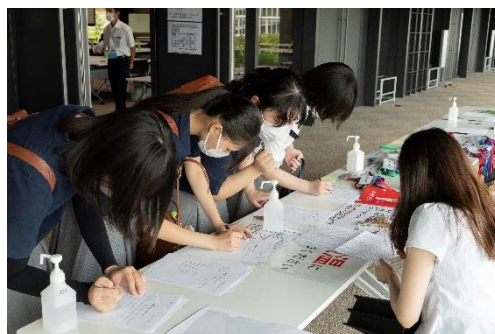
会場：アクリエひめじ 4F 407・408会議室

主催：姫路市

若い世代が我がまちの課題や将来像を話し合うタウンミーティング「ひめじ創生SDGsカフェ」（姫路市主催）がアクリエひめじで開かれた。参加したのは高校生を中心とした10～30代の約60人。「未来都市」に選ばれた姫路にふさわしい活性化策について自由に意見を出し合い、「生涯にわたって生活したいと思うことができるまち・姫路」の実現を役立てるため、地方創生に繋がるアイデアを約3時間話し合った。2016年から「ひめじ創生カフェ」を開いており、今回が7回目。国連が提唱したSDGs（持続可能な開発目標）の理念に沿ってアイデアを創出するという要素を加え、「ひめじ創成SDGsカフェ」と名称を改めてからは、3回目となる。姫路市は提案されたさまざまなアイデアを「市への提言」として施策に反映できるか検討。

主催者あいさつ

主催者を代表して、清元市長が「昨年5月、姫路市は内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、今年4月には環境省から26地域が「脱炭素先行地域」に選定されました。これは、これまでのひめじ創生SDGsカフェでフードロスやエネルギー問題について、皆さんから頂いた提案をもとに行政が実施した政策が評価されたのではなく、このひめじ創生SDGsカフェのような形で自分の身の回りのことから地域のこと、そして日本のこと世界のことを5年10年後の未来を見据えて考えられる人材を育成しているところが評価されています。皆さんがこの姫路・播磨の地域に住みながら、地球全体のことも考えることが出来るローカルにいながらもグローバルに物事を見ることが出来る「グローカル人材」になっていただきたいため、このようなイベントを続けています。皆さんが伸びやかに、様々な意見を自由に発想して、グループワークを通じてSDGsと環境と、コロナ禍においても経済活動やコミュニケーションをとっていくことの重要性をぜひ学んでほしい」とあいさつ。





講演

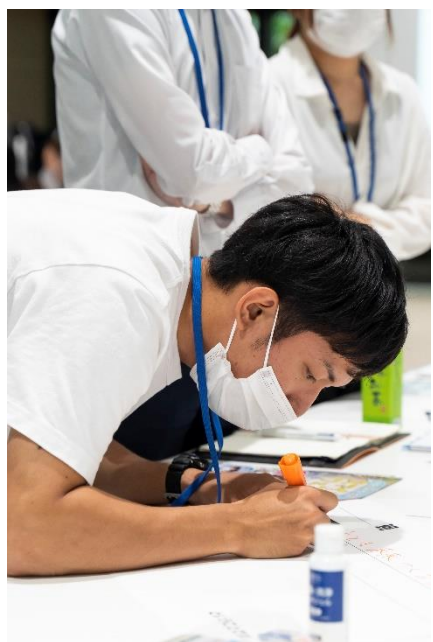
お笑いコンビ「マシンガンズ」の滝沢秀一氏が「マシンガンズ滝沢と考えるゴミ問題～清掃員から見た景色」をテーマに、自身の10年間にわたるゴミ清掃員としての経験を元に、ゴミ分別や食品ロスの現状を紹介し、ゴミの最終処分場の寿命やゴミを回収する人・処分する人へのリスペクトについて講演。ゴミ自体を減らす「リデュース（Reduce）」、一度使ったものをゴミにせず何度も使う「リユース（Reuse）」、使い終わったものをもう一度資源にする「リサイクル（Recycle）」という3つのRの総称3R（スリーアール）という言葉に、思いやりの心をもつ「リスペクト（Respect）」を加えた4Rを提案し、「『ゴミ』とは何か。『ゴミ』と思った瞬間、それは『ゴミ』になる。『ゴミ』とは人の心で変わるものなのかもしれない」と話した。



会議の進行役を務めるファシリテーターの鈴江氏は「近年、SDGsの認知度が高まっているものの、実際に取り組んでいる人はまだまだ少数。本日お集まりいただいた皆さんはこのSDGsカフェに参加されたことが、既にSDGsに主体的に取り組まれているということだと思います。年齢も職業も異なる方々が集まっていますが、ビジネスではなくイベント名の通り「カフェ」なので、リラックスした雰囲気の中、活発な意見を出し合ってもらいたい。SDGsの原則でもある「誰一人取り残さない」ことが大切であり、グループメンバーの全員を巻き込んで議論してほしい」とアドバイスした。

今回は、参加者が6グループに分かれて机を囲み、全体を取りまとめる「リーダー」、情報収集について考える「調査」、実現に向けての実働役「営業」、資金調達を検討する「財務」、効果的なPRを企む「広報」など、各メンバーに役割が与えられ、「SDGs×グリーン～脱炭素社会と経済成長の同時達成」のテーマに沿って議論を開始。「姫路の観光地は姫路城だけではない」「若者のSDGsの認知度を向上させたい」など、自由に発言し、グループごとに内容をまとめて発表した。







A班 サブテーマ：「観光」「地場産業」

タイトル：みんなでWin-Winツアー

地元の人と参加者がWin-Winになるツアー

【調査】

●ツアーの実現の為にという理由で、協賛企業の調査を行います

【営業】

●地場産業にふれながら脱炭素社会を目指すため、水素バスを革でアレンジし各事業所に交渉を行います。

【財務】

●地場産業を知って体感してもらうためクラウドファンディングのリターンとして観光パッケージツアーを行います

【広報】

●たくさんの人に興味を持ってもらい検索してもらうためインフルエンサーの協力や漫画などを用いて今までにない広告を作ります。



地元の人も観光客もどちらにもプラスになる施策を。

姫路城だけを観光し、神戸・大阪へ移動するという、姫路を訪れる多くの観光客の流れを変えたい。姫路の街や観光スポット・地場産業など、姫路をより深く知ってもらえるように、姫路駅を始点に姫路市内の観光スポットをまわれるように、水素バスを移動手段として巡回コースを設定。さらに、革細工の椅子など地場産業と水素バスのコラボレーションも提案。SDGsの「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の目標達成を視野に、「脱炭素社会」への貢献と、観光・地場産業の発展を融合させ、持続可能な社会の実現を目指す。

B班 サブテーマ：「環境」「観光」「若者雇用」

タイトル：若者よ。これが姫路だツアー

持続可能な社会の実現の為に、企業や施設が
どのような取り組みをしているかを知るための
ツアーを開催することで若者の雇用を生む

【調査】

●姫路市の企業のSDGsへの取り組みの本気度を確かめるため、学生のSDGs認知度及び企業の取り組み状況のチェックを行います。

【営業】

●企業の参加促進、参加企業の資金援助、教育への取入れのため、企業への受け入れ交渉、行政への補助金交渉、大学との連携を行います。

【財務】

●ツアーの内容を充実させ、参加者がよりSDGsについて学べるために、参加費を設定。

●ツアーを通じて姫路市での起業や移住を促進するため、助成金を整備。

●ツアーを姫路市民みんなで盛り上げるため、各企業からの寄付を募る。

【広報】

●起業や公務員を目指す人、SDGsに関心のある若者をターゲットにするため、産官学で連携した広報やSNSを用いたツアーの紹介を行います。



姫路での起業を目指したり・SDGsに関心がある若者がターゲット。

これからの未来を見据え、SDGsの知識をつけたい若者向けに

水素バスを利用した企業見学バスツアーを開催。姫路を拠点とした企業のSDGsへの取り組みを実際に見学することで、姫路への期待感を醸成し、姫路での起業や移住促進を狙う。さらに各企業の取り組みを体感することでSDGs17の目標の多くを学ぶことができる。また産学官で連携した地域情報誌やSNSの発信などで積極的な認知促進を行いたい。SDGsの「働きがいも経済成長も」にあてはまる。

C班 サブテーマ：「環境」「観光」「移住定住」

タイトル：観光地は姫路城だけではない！
「家島」を観光地としても定住地としても魅力ある街に

【調査】

●地域の人にも楽しめる場所にするため、住民の人に「どうしてほしい」という調査を行います。

【営業】

●アクセスをよくするため、他の自治体や交通機関とのコラボを行います。

【財務】

●価値を持たせるため、クラウドファンディングや入場料の設定を行います。

【広報】

●若い人をターゲットにするため、SNSやメディアなどでPRを行います。



姫路城以外の魅力発掘に注目し、「家島」を観光地としても定住地としてもさらに魅力のある場所として定着させることを提案。観光客だけでなく住民も楽しめる場所となるよう住民アンケートなどでニーズを汲み取り、同様の課題を抱える自治体と連携し問題共有をすることで、お金を払う価値がある観光地としてさらに発展できる策を模索する。また、港までの交通機関や島内での移動手段については水素自動車や電動バイク、電動バスなどを候補とするなど、脱炭素社会の貢献を視野に入れた。SDGsの「住み続けられるまちづくりを」など、多くの目標達成につながる。

D班 サブテーマ：「移住定住」

タイトル：姫路市マリンパーク

マリンパークを作り、お城と海沿いを連携して
地元民も楽しめる新たな観光地とする

【調査】

●地域の資源(自然)を守るため、地元アンケートを行います。

【営業】

●沿岸にマリンパークを新しく設置するため、交通の便をよくなり水質改善を行います。

【財務】

●姫路を一緒に盛り上げるため、姫路の企業から協賛金を募ります。

【広報】

●Youtuberとコラボし、SNSで告知・拡散。



姫路の観光地といえば姫路城。それ以外のメインスポットとして、影響力のある人気Youtuberや地元企業の出資を募り、新たなテーマパーク「姫路市マリンパーク」を作る提案。ターゲットは中高生をはじめとした10代～30代の若者たち。ただし住民の方々の声を集めながら水質改善・公共交通の整備と並行し実行する。パーク内では地場産品を活かしたメニューを提供するなど、新たな試みも。このテーマパークの出現により、観光地としてさらに盛り上がるだけでなく、雇用促進やUターン就職・転職、移住定住のきっかけになればと訴えた。SDGsの「海の豊かさを守ろう」など、多くの目標が達成できる。

E班

サブテーマ：「観光」「環境」

タイトル：ほっとする街をつくろう！

姫路城近くでイベントをするときに

観光客も入れる“ほっとできる”スペースを作る

【調査】

● 京都は観光業に優れているので、京都へ視察に行きます。

【営業】

● 環境に優しい街を作るため、太陽光発電や木造建築の会社、体に良い食べ物を提供してくれる会社と交渉します。

【財務】

● 資金を取得するため、クラウドファンディングとスポンサーを付け、提供者には商品券を配布します。

【広報】

● 年齢に関係なく誰でも落ち着ける場所とするため、SDGsに配慮した古民家的な造りにし、SNSやメディアなどで発信します。



「ほっとできる場所」＝「環境に優しい場所」と考え、脱炭素化を意識した太陽光発電の設置や木造建築・エシカルフードを扱う企業を巻き込むなど官民のパートナーシップで、ほっとできるスペースの建設を提案。地元住民や観光客などすべての人が利用できる姫路の癒し空間として期待。日本を代表する観光地である京都の取り組みも調査することで、年齢に関係なく誰でも落ち着ける場所を目指す。また、若者へ向けたクラウドファンディングでの資金調達やSNS発信はもちろん、新聞・ラジオ・テレビなどのマスメディアも使い、子供からお年寄りまで幅広い世代へ向けて発信する。SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」などの目標にあてはまる。

F班 サブテーマ：「環境」「子育て」「移住定住」

タイトル：子ども未来つくる園

姫路にSDGsに特化した保育園をつくる

【調査】

- 他の保育園の状況を知るために、待機児童の人数調査を行います。

【営業】

- 路線バスのルートを作るため、市の保育園との連携を行います。

【財務】

- 建設や運営費用を賄うため、命名権フランチャイズを行います。

【広報】

- 子育て世代をターゲットにするため、産院でPRを行います。



姫路に「子ども未来つくる園」という保育園を各所につくることで、待機児童問題を解決し、「SDGs×子育ての街」として移住定住を促進させたい。登園バスの路線バス化によるバス本数の見直しを行い、CO2削減も目指す。施設や教育カリキュラムにもSDGsを組み込むことで、小さな頃からSDGsにふれることができ、SDGsについて考えること・取り組むことが当たり前の世代を育成し、未来都市「姫路」をPR。各園ごとの命名権募集の導入による新たな収入の確保や、子育て世代に向け産院にパンフレットを置くことで認知を広めたい。SDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標達成を視野に。